

## 答辞

日差しが一日と暖かさを増し、吹く風にも春の訪れを感じられる季節となりました。本日は私たち卒業生のために、このような晴れやかな会を催していただき、また先ほどは石北先生より温かいご祝辞を賜り、誠にありがとうございます。学部卒業生一同を代表いたしまして、心より感謝の意を表します。本日、私たちは東京大学工学部応用化学科を卒業し、新たな人生の第一歩を踏み出すことになりました。これはひとえに、諸先生方、職員の皆様、ご来賓、家族をはじめご臨席の皆様のご指導、ご支援のおかげであります。改めて深く御礼申し上げます。

振り返ると、周りに流されるまま凡庸な進路を歩んでいた高校生の私にとって、地元を出てこの東京大学を受験することは大きな決断でした。何もかも異なる環境で始まった大学生活に大きな不安を抱いていましたが、個性的な友人達と出会い、多くの新しい経験をしたこの四年間は、これまでの人生の中で最も充実した時間となりました。

応用化学科では未知の学問や最新の研究内容に触れ、自分が学んできたことは数あるうちのごく一部の分野の、一側面に過ぎないということを感じました。中でも、野地先生の講義を通じ、それまで苦手意識を持っていた生物系の分野の新たな側面や、境界領域の魅力を知り、野地研究室で学びたいと考えるようになりました。

四年生になり、晴れて野地研究室に配属されましたが、当初は学部までで積み重ねてきた勉強と、研究室で行わなわれている最先端の研究の内容の差に圧倒されるばかりでした。しかし野地先生をはじめとした研究室のスタッフの方々や、先輩方の親身なご指導のお陰で何とか研究を進めることが出来ました。専門的な知識は元より、研究に取り組む姿勢や身につけるべき能力など、研究者としての基本を示していただきました。また、深い理解度と知的好奇心をもって研究に打ち込む先輩方の姿は私の目標となりました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で研究活動が制限され、大学という場では得られない経験の真価を実感した一年となりました。そのような状況の中でも、私たちの学習の機会が失われないよう、研究室の皆様をはじめとした多くの方々にご尽力いただき、本当にありがとうございました。周りの方々の多大なるご支援があつてこそ、学業に集中することができているということをお忘れすることなく、今後も研究活動に精進して参ります。

本日ももちまして、私たちは修士課程に進学する者、就職する者など、それぞれの道に進んでいきます。これからはより一層、「東大生、東大卒」といった肩書きは本質的でなくなり、私たち自身が本学で身につけてきたもので評価されることとなります。与えられた環境において、いかに自分自身の価値を生み出すことができるかが新たな課題となることと思われまます。この応用化学科で学んだ知識、研究活動のなかで培った批判的思考力や忍耐力を自分の財産とし、どのような場でも活躍できる人材になれるよう、自己研鑽を続けていく所存です。

最後になりましたが、お世話になりました諸先生方、職員の皆様、先輩方、そして四年間にわたる大学生活だけでなく、これまでの人生を支えてくれた両親に改めて感謝を申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸、本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。答辞の言葉とさせていただきます。

令和三年三月一九日

応用化学科 卒業生総代 田口真衣